

コロナパンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？

主催：日本学術会議

開催日時：令和4年9月2日（金）13時～16時40分

開催形式：ONLINE

参加フォーム：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0114.htm>



企画趣旨

2019年末に始まったコロナ・パンデミックは、すでに2年以上をへて、いまだ収束しない。コロナ・パンデミックによる人口動態への直接的な影響は今後の分析を待たざるを得ないが、社会内の様々な格差が顕在化することによる間接的な影響が危惧される。中でも大きなものが、そもそも不安定な立場におかれた人びとの労働状況が、コロナ・パンデミックによって、エッセンシャルワーカーへの過大な労働需要と、サービス関連産業における雇用削減の両面から、いっそう悪化するのではないかという危惧である。本フォーラムでは、「働くこと」の問題を中心に、コロナ・パンデミック以降の社会における人口縮小社会の課題解決に向けて、緊迫する国際情勢や移民問題も視野に入れつつ、多面的な検討を行う。

プログラム

13時00分～14時40分

総合司会・開催趣旨説明 遠藤薫（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会委員長、学習院大学教授）

講演：

「コロナ・パンデミックと人口問題」 金子隆一（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会副委員長、明治大学特任教授）

「ワークライフバランスと人口問題」 三成美保（日本学術会議連携会員、追手門学院大学教授、奈良女子大学名誉教授）

「コロナ・パンデミックが明らかにした労働のジェンダー格差」
白波瀬佐和子（日本学術会議会員、東京大学教授）

「コロナ・パンデミックと健康格差」 近藤尚己（京都大学教授）

14時40分～14時50分 休憩

14時50分～16時10分

パネル・ディスカッション

司会 大沢真理（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

パネリスト

伊藤公雄（日本学術会議連携会員、京都産業大学客員教授）

武石恵美子（日本学術会議連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会幹事、法政大学教授）

石原理（日本学術会議特任連携会員、人口縮小社会における課題解決のための検討委員会幹事、女子栄養大学教授）

馬奈木俊介（日本学術会議会員、九州大学教授）

16時10分～16時30分 全体討論

16時30分～16時40分

閉会の挨拶 望月眞弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）